

# 平成22年度 入学試験問題

## 国語

九州国際大学付属中学校

### 【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 解答はすべて、指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

時間には大きく分けてふたつのシユルイがある。ひとつは「自然時間」<sup>①</sup>、もうひとつは「社会時間」<sup>②</sup>。A 自然時間からみていこう。そこには、四十七億年ともいわれる地球誕生以来の歴史、四十億年ともいわれる生物誕生以来の進化の歴史といった、ぼくたちには想像することもできないほど長くゆっくりとした時間の流れが含まれる。生物は三十億年以上かけてやつと陸に上がり、恐竜たちの足元でうごめいていた哺乳類の中から現れた霊長類は、枝分かれの末に人類を生み出した。それはつい六百万年の昔。地球の歴史の中でいえば、ほんの一瞬のことだ。

自然時間には、産まれ、成長し、子を産み、老いて、死ぬ、ひとつひとつの生きものが生きる時間というものもある。また、山には山の、川には川の、海には海の時時間というものもある。水は大きな時間の環の中をいつもゆっくりと動いているようだ。雨がふる。水の一部は土にしみ入り、時間をかけて地下水となり、やがてまた地面から湧き出し、小さな川となって大きな川へとソソギ、しまいには海へと流れこむ。また、雨水の一部はジョウハツし気体となって大気の中に戻り、やがて雲となり、また雨となって海や陸の上にフリソソぐ。地球上のあらゆるものは、1 系というシステムの中であって、お互いにミツセツに<sup>③</sup>関係し、影響しあいながら生きている。1 系という時間の枠組み(エコロジー時間)の中にすべてのものが生きている、といってもいい。地球全体がひとつの生きもののような存在だと考える科学者たちもいる。B、エコロジー時間を「地球時間」と呼ぶこともできるだろう。

もうひとつの社会時間の方はどうだろう。ぼくはこんなふうに考えている。人間は生きもののも一種でありながら、高度に発達した頭脳を使って、自然界のさまざまな要素を資源として生存のために活用する方法をあみ出し、また、言語という2 なコミュニケーションの手段を使って、お互いが深く関わりあう社会というしくみをつくり出してきた。その結果、自然時間の枠組みの中にありながら、他の自然時間とは区別された、人間世界独特の時間である「社会時間」ができた。人間の集団が、自然の恵みをたくみに生かしながら自分たちの社会の存続をはかる方法を経済という。その昔、経済というものは自然の時間といかにうまくつき合うかという社会的な知恵だったのだ。

C、いつごろからか経済は社会時間の枠組みから外れて、一人歩きするようになった。それまで自然時間の枠の中に

あった社会時間は、変化するとしても、自然のペースを無視したり、それに逆らったりすることはなかったから、変化のスピードはいつもゆるやかで、おだやかなものだった。しかし経済が一人歩きし始めると、次第しだいにその時間は加速し、自然のペースを大きくはみ出すようになってしまった。

(辻信一「ゆっくり」でいいんだよより)

問一 ㉑㉒㉓のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 A C にあてはまる最も適当な語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア しかし
- イ だから
- ウ まず
- エ 決して

問三 ①「自然時間」とは具体的にどういう時間ですか。その内容をまとめた次の文の空らんにあてはまる言葉を、

本文中からどちらも二字で探し、書き抜きなさい。(同じ記号のところには、同じ言葉が入ります。)

「自然時間」とは、あ(二字)やい(二字)の進化の歴史と、あ上にあるすべてのものに流れる時間のことである。

問四 「1系」とは「一定の地域に生息する生物のあつまり」と、それを取り囲む環境をひとまとまりのものとしてとらえたもの」という意味の言葉です。

1にあてはまる最も適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 生体
- イ 生態
- ウ 生隊
- エ 生帯

問五 ②「社会時間」とはどのような時間ですか。それを十字以内で表現した部分を探し、書き抜きなさい。

問六 2には、「単純」の対義語が入ります。その語を漢字で答えなさい。

問七 ——— ③ 「一人歩きする」を使って短い文を作りなさい。(「一人歩きして」などのように、形を変えてもよい。)

問八 本文の内容と合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人類の歴史は、四十億年ともいわれる生物誕生以来の進化の歴史に等しく、想像をこえるほど長いものである。
- イ 科学者たちはみんな、地球というのは、そのもの全体がひとつの生きもののような存在であると考えている。
- ウ 経済が社会時間の枠組みから外れたことによって、社会時間が自然時間の流れから大きくはみだすようになった。
- エ 人間は高度に発達した頭脳を使うことによって、人間社会を自然の枠組みから何とか切り離そうと努力してきた。

## 二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「きみ」(和泉恵美)は、雨の日の帰り道で事故に遭った。それ以来、足が不自由になってしまい、松葉杖まつばづえをつけて生活している。学校のなわとび大会の話し合いで、松葉杖でとべない「きみ」と、内気な「由香ちゃん」が縄なわの回し手に決められた。

きみの隣となりの席に座った由香ちゃんは、まず最初に「失敗したらごめんね」と、「もしも」の話ではなく、もう実際に失敗してしまっただみたいな顔で言った。

「べつにいいよ、こんなの勝たなくていいし」

きみはそっけなく言った。事故を境②に、そんなしゃべり方をするようになった。「歩けないからスネてるんだよねー」と、いつか万里ちゃんに聞こえよがしに言われたことがある。こいつ、全然わかってない、とそっぽを向いて\*に笑ってやった。

「和泉さん」——由香ちゃんはきみを苗字みょうじで呼んで、「練習どうする？今日、晴れてるし、二人で特訓③する？」とつづけた。考える間もなく「しない」と答えると、またしよんぼりと、申し訳なさそうにうつぶいってしまう。

二人で話をしたことは、いままでなかった。由香ちゃんがクラスの誰かと話をしているところも、ほとんど見たことがない。四月からずつと気になっていた。でも、話しかけるタイミングが見つからなかった。事故に遭ったあの日は平気で駆けて行けたのに、いまはなにをしゃべればいいか決めないといけない気がして、それが見つからないから話しかけられない。

由香ちゃんはうつぶいまま、顔を上げない。

「だって、どうせみんなで練習するんじゃない」——きみの口調④はつい言い訳めいてしまう。①

「でも……そのときにうまく回せないと、みんなに悪いし」

「関係ないよ、そんなの」

ちよつと腹が立った。由香ちゃん②が「みんな」を気づかうのが嫌いやだった。

「みんな」は信じない。きみはいつも思う。「みんなと仲良く」なんて、そんなの嘘うそだ。傘かさに入れるのは一人、せいぜい二人。

友だちだから、と無理して五人も傘に入れることはなかった。あの五人の中で、すっごく仲良し、という子は一人もいなかった。こつちの肩が雨に濡れてもいいから、この子だったら傘に入れてあげたい、入ってほしい……そんな子は、よく考えてみたら、友だちの中には誰もいなかった。

だから、もう「みんな」とはしゃべらない。「みんなの中の誰か」が話しかけても、愛想笑いは浮かべない。そう決めて、それを実行して、「みんな」は愛想笑いを浮かべない子には話しかけてこないんだな、と知った。

しばらく沈黙がつづいたあと、やっと由香ちゃんは顔を上げて、遠慮がちに言った。

「……和泉さんって、昨日、誕生日だった……よね？」

「なんで知ってんの？」

「クラス名簿に出たから」

「って、四月につくったやつ？」

「そう……みんなの誕生日、カレンダーに書いたから……で、昨日、和泉さんの誕生日なんだなあ、って」

「なんで？なんでそんなのカレンダーに書いてんの？」

「……ごめん」

「違うって、怒ってるんじゃないって、なんで？」

由香ちゃんは顔を赤くして、そうでなくてもか細い声をさらに小さくして、「病院のまね」と言った。きみが入院していたのと同じ、大学病院のことだった。小学校に上がる前の由香ちゃんは、小児病棟にずっと入院していた。由香ちゃんのような幼稚園児から小学六年生まで、ほとんどが長期入院の子どもで、病院の中には小学校も特別に設けられていた。

「『お友だちの部屋』って呼んだ部屋があったの。黒板とか机とか本棚とかテレビがあつて、小学生の子はそこで勉強するんだけど、ちっちゃな子も具合のいいときには、自由に入って遊べるの」

(中略)

『お友だちの部屋』には、看護師さんが手作りした大きなカレンダーが貼つてあつた。そこには入院中の子ども全員の誕生

日が書き込まれていて、誰かの誕生日には、ベッドから出られる子はみんな『お友だちの部屋』に集まってお誕生日会をする。

「看護師さんやお医者さんが人形劇してくれたり、手作りのプレゼントくれたり、歌をうたってくれたりするだけなんだけど、それがすごく楽しかったの、みんな。カレンダーめくって、あと何日、あと何日……って」

③その頃のことを思い出したのか、由香ちゃんはうれしそうに、初めて笑った。

きみは——正直、ちょっとあきれて、「そのまねしてんの？」と訊いた。

「うん……」

「でも、全然違うじゃん。べつにお誕生日会なんかしないし、一緒に入院とかしてたら、それはまあ、友だちっぽい感じになると思うけど……でも、全然違うじゃん」

由香ちゃんは、またしよんぼりとして、「ごめん……」とうつむきそうになった。

「違う違う、怒ってないって」

あわてて言ったきみは、「でもわかるよ、なんとなく、その気持ち」と笑って、なんで気をつかって慰めてるんだろかなあ、と今度は自分に向けて苦笑した。

由香ちゃんは気を取り直すように、ふう、と息をついて、きみに言った。

「和泉さん、誕生日おめでとう」

家族以外からももらった唯一の「おめでとう」だった。

⑤きみは思わずそっぽを向いて、二回深呼吸をして、言った。

「ちょっとだけ、特訓しようか」

由香ちゃんが笑ったのが気配でわかった。たんぽぽの綿毛がふわっと舞い上がるような、まんまるでやわらかい笑顔だった。

(重松清「きみの友だち」より)

問一 ㉠㉡の漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。

問二 \* にあてはまる最も適当な言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 悲しげ      イ さわやか      ウ 冷ややか      エ くやしげ

問三 ①「つい言い訳めいてしまう」とありますが、そのようになってしまったのは、何がきっかけだったと考えられますか。本文中から二字で探し、書き抜きなさい。

問四 ②「由香ちゃんが『みんな』を気づかうのが嫌だった」とありますが、「きみ」にとっての「みんな」とはどういう人たちを指しますか。それを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、**A**は三字、**B**は四字、**C**は五字で本文中からそれぞれ探し、書き抜きなさい。

とくに **A**(三字) というわけでもなく、**B**(四字) を浮かべなければ **C**(五字) もくれないような人たち。

問五 ③「その頃」とはいつのことですか。次の空らんにあてはまる部分を本文中から十五字以内で探し、書き抜きなさい。

由香ちゃんが  ころ。

問六 ④「初めて笑った」、⑥「笑った」と、「由香ちゃん」が笑った場面が二か所ありますが、このように「由香ちゃん」が笑顔になるとき、「由香ちゃん」は何かを感じているようです。その何かを「語で考えて答えなさい」。

問七 「由香ちゃん」の表情を、**比喩**(たとえ) を用いて表現している一文を探し、初めの五字を書き抜きなさい。

問八

—— ⑤ 「きみは思わずそっぽを向いて、二回深呼吸をして」とありますが、なぜ「きみ」はこのような行動を取ったと考えられますか。あなたの考えを自由に書きなさい。

三

以下の各問いに答えなさい。

問一 次の□に、体の一部を表す漢字を一字入れ、意味の通る文にしなさい。

- ① 友だちの一言に□を疑った。
- ② とてもあいつには□がたたない。
- ③ のどから□が出るほどゲーム機がほしい。

問二 次のことわざの使い方が正しいものには○、まちがっているものには×をつけなさい。

- ① 友だちに忠告したが馬の耳に念仏で、私の話を聞き入れてはくれなかった。
- ② せっかく誕生日プレゼントをもらったのに、どこかへ置き忘れてしまって、泣きつ面に蜂だった。
- ③ ぼくの母は石橋をたたいてわたる性格で、出かける時は何度も戸じまりの確認をする。

問三 次の□にある漢字を入れて、矢印のように読むと二字の熟語が四つできます。□に共通して入る漢字を一字それぞれ答えなさい。

